18 世紀初頭のオランダ風俗画：近年の再評価をめぐる考察

九州大学准教授　青野　純子

昨年のご著作の出版を記念してお話しいただきます。詳細については以下著作紹介をご参照ください。

Junko Aono, Confronting the Golden Age: Imitation and Innovation in Dutch Genre Painting 1680-1750, Amsterdam University Press, Amsterdam 2015, 272 pages, 129 color plate, ISBN: 9789089645685, 99 euro（青野純子『黄金時代との対峙：一六八〇-一七五〇年のオランダ風俗画における模倣と革新』）

レンブラント、フェルメールを輩出した一七世紀オランダ絵画は、彼らの没後どうなったのか。一六七二年のフランス軍侵攻によるオランダの政治不安と不況のなか、七〇年代には折しも著名な画家たちがこの世を去る。そのため一六八〇年代以降の時期は、長い間、一七世紀黄金時代の衰退期とされてきた。しかし、近年のオランダ美術研究では、この時代の絵画を様々な角度から再考する研究が見られる。そのなかで、本書は二〇一一年にアムステルダム大学に提出された著者の博士論文に基づき、このポスト・フェルメールの時代、すなわち一六八〇-一七五〇年の風俗画の全体像を初めて浮彫りにする。最盛期のオランダ絵画から「失われた」特質ではなく、一八世紀に「継承され、改変された」側面に注目することで、一八世紀初頭の絵画をその時代固有の評価、芸術的文脈において理解することを目指す。そのために、一八世紀の財産目録、競売目録、画家伝や絵画理論書の分析を行い、画家をめぐる芸術的環境―絵画市場の動向、一七世紀風俗画の収集熱、古典主義絵画の流行、画家とコレクターとの関係など―の再構築を行った。

本書の構成としては、本論四章に加え、画家二九名の代表的な風俗画作品のカタログを編纂した。第一章では、画家とコレクターとの緊密な関係を明らかにし、続く第二-四章では、三つのケーススタディにより、一八世紀初頭の風俗画の特質に迫る。とりわけ、一八世紀の画家がコレクターの趣味に訴えるべく、人気を博した一七世紀風俗画を手本に、どのように自らの作品を制作したのか、その市場戦略に焦点をあてた。考察の対象としたのは、第二章では一八世紀前半に制作された一七世紀風俗画の複製作品（油彩・版画）、第三章では一八世紀風俗画における一七世紀の題材やモチーフの借用、第四章では一八世紀風俗画に描かれた人物像に際立つ古典主義の理想美である。

結果、一八世紀初頭の画家が、日常に題材を得る一七世紀風俗画の伝統と、理想美を追究する同時代の古典主義を組み合せ、新たな風俗画を創り出したことが明らかになり、さらに、この表現こそが偉大なる先駆者への賛辞と挑戦として高く評価されていたことも示された。本書は、一六八〇年以降を、最盛期オランダ美術が「過ぎ去った」時期ではなく、それを黄金時代の遺産として継承し規範化した最初の受容期と位置づけ、新世代の画家による模倣と革新の時代として提示したと言えよう。

（青野純子、『デアルテ』32 号、80 頁より転載）